

KagoGIGA ⁷ インフォメーション

鹿児島県教育庁高校教育課
学校教育ICT推進班
令和4年6月号②

今回の話題 「CBT」、「学習 e ポータル」、「MEXCBT」

教育の情報化の取組については、とするとハード面の整備や「学習支援アプリ等の活用」、「オンライン学習」、「持ち帰り学習」などに話題が集中しがちですが、「GIGA スクール構想」の大きなポイントの一つは「個別最適化された学び」の実現です。そのためには、一人一人の児童生徒の学びの状況を把握することが重要で、学習履歴や学習成果といった教育データを、どのように効果的に収集・蓄積し、分析・活用していくかということについて検討がなされています。

今回は、その一つの方法として、現在、国が中心になって進めている「CBT」の取組や「CBT」に係る「学習 e ポータル」、「MEXCBT」のこについて紹介します。

CBT(Computer Based Testing)

コンピュータを用いるテスト形式のことで、受験者はコンピュータの画面に表示される設問に対し、キーボードやマウスを用いて解答を入力する。イヤホンやマイクなどの活用によって、リスニングテストやスピーキングテストを実施することも可能です。

メリットとして、①調査問題の充実・多様性、②情報漏洩・カンニング等へのセキュリティ強化、③実施の改善・効率化による負担軽減、④学習履歴や成果等のデータ収集等の容易性などが挙げられます。

半面、①端末やネットワークの不具合の影響を受ける、②学習者の操作スキルの差がテストに影響を及ぼす、などのデメリットもあります。

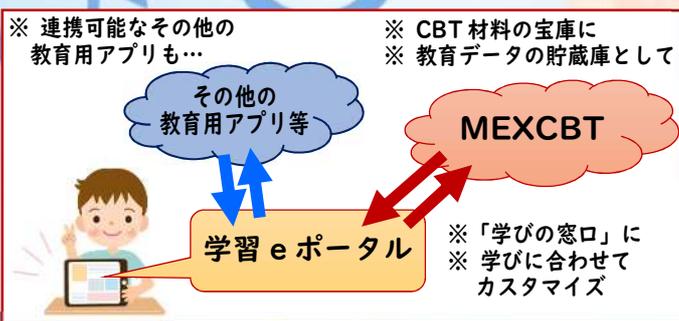
MEXCBT(文部科学省 CBT システム)

GIGA スクール環境下で文部科学省(MEXT)が取り組むコンピュータベーステスト(CBT)に関するシステムです。

学びの保証オンライン学習システムとして、評価のためだけでなく、たくさんの問題にチャレンジしながら学習を進めていく、ドリルのような役割もあります。

文部科学省は、全国の小中学校を対象に実施している全国学力・学習状況調査も近い将来 MEXCBT を使って実施することを想定しているようです。

MEXCBTに関する情報は、下のサイトで見ることができます。



学習 e ポータル

学習 e ポータルは、ソフトウェア間の相互運用性を確立してユーザにとっての操作性を向上させ、教育データをより良く活用するために構想されたデジタル学習環境がコンセプトです。ハブの役割を持つソフトウェアが、デジタル教科書・教材や学習ツールなどの“部品”をブロックのように組み上げて、学校や学習者のニーズに合ったデジタル学習環境を構築できるようになっています。

①シングルサインオン (SSO)、②アカウントの年度更新の負担軽減、③スタディ・ログデータの活用と学習状況の見える化、家庭など学校外の学習の状況の教員による把握、④個人単位での適切な教材や課題の割り当て、⑤児童生徒自身によるデータを元にした振り返りと自己調整学習の実現、⑥テスト結果や教科書・教材の連携、⑦集約した児童生徒個人のスタディ・ログデータの本人への還元など、様々な要望に対応できるように設計されています。

MEXCBT で使用可能な学習 e ポータル

MEXCBT で使用可能な学習 e ポータルは、以下の4社から提供されているものになります。

ただし、MEXCBT 自体は無償で提供されていますが、学習 e ポータルは一部機能が有償なので、注意が必要です。機能の無償・有償の区分は提供各社で異なるので、詳細はそれぞれの学習 e ポータルの公式ページを御確認ください。

学習 e ポータル (提供会社)	公式 HP 二次元コード	学習 e ポータル (提供会社)	公式 HP 二次元コード
L-GATE (株式会社内田洋行)		まなびポケット (NTT コミュニケーションズ株式会社)	
OPEN PLATFORM FOR EDUCATION (OPE) (日本電気株式会社)		STUDYPLUS FOR SCHOOL (スタディプラス株式会社)	

※ 上記 4 社提供の学習 e ポータルの他、文部科学省が MEXCBT 開発委託をしている「オンライン学習推進コンソーシアム」が提供する実証用学習 e ポータル（無償）を利用することも可能です。ただし、こちらの場合は SSO ができず、MEXCBT への接続のみという限定的な機能となります。

MEXCBT や学習 e ポータルを利用するには…？

MEXCBT や学習 e ポータルは市町村教育委員会からの申請で利用することができます。(県が行った調査では、R4.3 月末時点で、小学校の端末に学習 e ポータルを導入・導入予定の市町村数は 37、さらに MEXCBT を利用・利用予定の市町村数は 34、中学校の端末では、学習 e ポータルを導入・導入予定の市町村数は 30、さらに MEXCBT を利用・利用予定の市町村数は 26 となっています。)

活用状況を見ると、授業で活用している学校がほとんどですが、家庭学習で活用している学校もあるようです。今後、全国学力・学習状況調査も学習 e ポータルを通しての実施も想定されているとのこと。これから一層活用の幅が広がっていきそうです。

御自身の学校で利用できるかどうか、また導入については、管理職の先生を通して所管する各市町村教育委員会に相談されてみてくださいね。



県立学校でも MEXCBT・学習 e ポータルの利用が始まります。

MEXCBT, 学習 e ポータルというと、市町村立学校での活用が話題になることが多いですが、当然、県立学校でも利用することができます。

県教委では、現在、各県立学校で MEXCBT, 学習 e ポータルが利用できるように準備等を進めているところです。

「KagoGIGA 情報交流室」MEXCBT・学習 e ポータル情報交流専用チャンネル開設!!

県教委「GIGA スクール運営支援チーム」が開設している「KagoGIGA 情報交流室」に、「MEXCBT, 学習 e ポータル情報交流専用チャンネル」を開設します。

「まなびポケット」に関しては、既に鹿児島市教育委員会学校ICT推進センターが専用チームを作成していただき、既に活発な情報交流が行われているため、その専用チームとも連携したチャンネルとなります。

設定から活用まで、不安になることや疑問に感じることもあるでしょう。先行事例も欲しいですね。みんなで情報や知識を持ち寄って、解決していきましょう!!

